

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 3 区分
 【発行日】平成 18 年 1 月 5 日 (2006.1.5)

【公開番号】特開 2003-198480 (P2003-198480A)
 【公開日】平成 15 年 7 月 11 日 (2003.7.11)
 【出願番号】特願 2002-329230 (P2002-329230)
 【国際特許分類】

H 0 4 B 10/08 (2006.01)
H 0 4 B 10/04 (2006.01)
H 0 4 B 10/06 (2006.01)
H 0 4 B 10/14 (2006.01)
H 0 4 B 10/26 (2006.01)
H 0 4 B 10/28 (2006.01)

【F I】

H 0 4 B 9/00 K
 H 0 4 B 9/00 Y

【手続補正書】
 【提出日】平成 17 年 11 月 11 日 (2005.11.11)

【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】特許請求の範囲
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

光ネットワークにおける少なくとも 1 つの光トランシーバに対して、開放したファイバーの制御を実行する方法であって、
 2 つ以上のチャンネルで信号を送信するステップと、
 信号の損失を検出するステップと、
 1 つのチャンネルを除いたすべてのチャンネルで送信をディスエーブルするステップと、
 信号の再出現を検出するステップと、
 以前にディスエーブルされていたチャンネルの全てをイネーブルにするステップとを含む、方法。

【請求項 2】

前記送信をディスエーブルするステップが、1 つのチャンネルの送信を所定のパワーレベルのままにする、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記送信するステップが前記所定のパワーレベルを超えるトータルパワーを有する、請求項 2 に記載の方法。

【請求項 4】

前記送信するステップが多チャンネル並列送信を使用する、請求項 1 ~ 3 の何れか 1 項に記載の方法。

【請求項 5】

前記送信するステップが 1 G b p s より大きいデータ速度を有する、請求項 1 ~ 4 の何れか 1 項に記載の方法。

【請求項 6】

前記送信するステップが 10 G b p s より大きいデータ速度を有する、請求項 1 ~ 5 の

何れか 1 項に記載の方法。

【請求項 7】

前記送信するステップが波長分割多重を使用する、請求項 1 ～ 6 の何れか 1 項に記載の方法。

【請求項 8】

開放したファイバーの制御を実行するための光トランシーバであって、

2 つ以上のチャンネルを送信するように動作可能な送信機と、

信号を検出するように動作可能な受信機と、及び

前記送信機と前記受信器に結合された制御ロジックブロックであって、前記受信機が信号を検出しなかった場合に、前記制御ロジックブロックが前記送信機からの 1 つの残りのチャンネル以外の全てのチャンネルをディスエーブルし、前記受信機が信号を検出した場合に、前記制御ロジックブロックが前記送信機の全てのチャンネルをイネーブルにしている、制御ロジックブロックを含む、光トランシーバ。

【請求項 9】

前記 1 つの残りのチャンネルを介した送信が所定のパワーレベルにある、請求項 8 に記載の光トランシーバ。

【請求項 10】

前記送信機が、正常動作中に所定のパワーレベルを超えて、又は所定のパワーレベルで送信する、請求項 8 又は 9 に記載の光トランシーバ。

【請求項 11】

前記送信機が多チャンネル並列送信を使用する、請求項 8 ～ 10 の何れか 1 項に記載の光トランシーバ。

【請求項 12】

前記送信機が、使用中に 1 G b p s より大きいデータ速度で送信する、請求項 8 ～ 11 の何れか 1 項に記載の光トランシーバ。

【請求項 13】

前記送信機が、使用中に 10 G b p s より大きいデータ速度で送信する、請求項 8 ～ 12 の何れか 1 項に記載の光トランシーバ。

【請求項 14】

前記送信機が波長分割多重を使用する、請求項 8 ～ 13 の何れか 1 項に記載の光トランシーバ。

【請求項 15】

実質的に添付図面に関連して説明されたような、及び添付図面に示されたような開放したファイバーの制御を実行する方法。

【請求項 16】

実質的に添付図面に関連して説明されたような、及び添付図面に示されたような光トランシーバ。